

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：学生部	担当部局：学長室・教務部・総合支援センター・学生部
大項目	8 学生支援 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	8.0.1 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。【担当部局：学長室】	
要素	学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する方針の明確化	
小項目	8.0.2 学生への修学支援は適切に行われているか。	
要素	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性【担当部局：学長室】	
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施【担当部局：教務部】	
	障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性【担当部局：総合支援センター】	
	奨学金等の経済的支援措置の適切性【担当部局：学生部】	
小項目	8.0.3 学生の生活支援は適切に行われているか。【担当部局：学生部】	
要素	心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮	
	ハラスメント防止のための措置	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 「オンリーワン」の学生を育てるために、効果的で総合的な学生支援を推し進める体制を整備する。	→学生支援に関する全学的な方針を定める。	C	B	B		
2. 休・退学者の状況を把握し、退学率を抑制・低減する。	→退学率2%未満を保持する。	B	B	B		
3. 障がいをもつ学生に対して総合的な支援を行う体制を整備する。	→キャンパス自立支援課と学生支援センターの統括	C	A	A		
4. キャンパス・ハラスメント防止に関する研究会を、各組織がそれぞれ最低5年間に1回は開催する(2010年4月段階で、11学部及び併設の研究科、2つの専門職大学院、1つの独立研究科 合計14組織)。	→各組織の研究会開催状況(開催件数)。5年間に最低1回はキャンパス・ハラスメントの講演会を開催する。	B	B	B		
5. 体育館を利用する課外活動団体の活動を強化する。	→総合体育館を使用する課外活動団体8団体(バスケットボール部、バレーボール部、ハンドボール部、バドミントン部、レスリング部、フェンシング部、卓球部、器械体操部)に対して、年間951時間20分の使用時間増を実現する。	B	A	A		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
6. 2013年度入学者を対象とした入学前予約型奨学金制度を実施する。	→実施の有無			B		
7. 2013年度より、現行支給奨学金制度の募集時期を変更する。	→実施の有無			B		
8. 2013年度より、緊急時貸与奨学金制度を実施する。	→実施の有無			B		

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2010年度は担当の副学長、学長補佐を任命し、さらに専任職員を1名配置。また総合的學生支援小委員会を設置し、学内に存在するデータの把握。並行して平成21年度文部科学省戦略的大学連携支援事業に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出-国公立4大学IRネットワーク」(北大、府大、同志社、甲南)に、本学の4学部が試験的に参加この取組の中で、学生調査によるデータの収集を行っている。
目標2	退学率は1.29% (昨年の本学の自己評価の作成時点では0.8%) で、2%未満の保持という指標は達成できた。また2009年度1.38%からも2010年度は低下している。引き続き、具体的な理由を調べる必要はある。
目標3	2011年4月1日から学生部学生支援センターと教務部キャンパス自立支援課を統合し大学直属の「総合支援センター」を設置した。この組織統合により、「こころ」と「からだ」に困難を抱える学生に対する支援を総合的に行なえる体制が構築され、運営を開始している。
目標4	2009年度、2010年度の学部・研究科における部局単位でのキャンパスハラスメント研修は、合計で4件の開催であった。2011年度は講演会講師料補助制度の周知徹底と研修資料の提供などに努め、5つの学部・研究科で研修が実施された。
☆ 目標5	目標設定当初は使用増加予想時間を合計951時間20分と見込んでいたが、各団体が使用可能時間を一杯使うようになり、目標を設定した2009年度と比べて、総合計で3,437時間30分の増加と大幅な増加となった。総合体育館を使用する課外活動団体も、部員数が増加しており、時間的側面からは学業との両立を実現し、効率的且つ十分な練習を行うための環境を提供できていると判断している。
目標6	2012年2月までに入学前予約方奨学金制度「ランパス支給奨学金」の選考内規および募集要項を作成した。また、2012年3月のオープンキャンパスで、2013年度受験生を対象にランパス支給奨学金の情宣を開始した。
目標7	2011年6月の関学支給奨学金採用式から、現行支給奨学金の募集時期変更について情宣を開始し、その後の奨学金関連の説明会時にも情宣している。また、2012年1月より各学部の掲示板に現行支給奨学金の募集時期変更についての掲示を貼付し、情宣している。募集時期変更に伴う選考内規の整備は2012年3月に終了している。
目標8	2011年9月の貸与奨学金説明会から、2013年度から緊急時貸与奨学金を導入する旨情宣を開始し、その後の奨学金関連の説明会時に情宣している。また、2012年1月より各学部の掲示板に緊急時貸与奨学金についての掲示を貼付し、情宣している。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

		単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	在籍学生一人あたりの奨学金金額	支給	円	26,426	29,117	35,968	34,705	36,251	支給奨学金総額÷在籍学生数
		貸与	円	225,759	241,754	262,927	276,225	283,781	貸与奨学金総額÷在籍学生数
指標2	奨学金採択率	支給	%	8.3	9.0	9.9	10.0	10.2	支給奨学金採択者数÷在籍学生数
		貸与	%	31.3	32.5	34.7	35.2	36.0	貸与奨学金採択者数÷在籍学生数
指標3	奨学金受給者一人あたりの額	支給	円	318,736	322,144	363,566	346,311	354,728	支給奨学金総額÷支給奨学金受給者数
		貸与	円	722,249	744,664	758,307	785,761	787,615	貸与奨学金総額÷貸与奨学金受給者数
指標4	学生支援相談室の利用者数	人	2,146	2,257	2,018	2,432	2,752	利用者数は延数	
指標5	退学者比率	%	1.15	1.32	1.38	1.29%		当該年度退学者数÷当該年度在籍学生数(5/1現在)	
指標6	学生生活の充実度	%	-	88.1	-	89.2	-	「非常に充実している」「かなり充実している」「まあまあ充実している」「あまり充実していない」「全然充実していない」のうち「非常に充実している+かなり充実している+まあまあ充実している」とする。(CCA調査 2年に1度実施)	
指標7	学生会公認団体/自治会傘下団体の構成員比率	%	21.53	22.03	21.91	21.15	21.35	(学生会公認団体構成員数+自治会傘下団体構成員数)÷在籍学生数	

注) 奨学金は学内および学外を合計した金額とし、指標1~4は学部生、大学院生、専門職大学院生を対象とし、指標5~6については学部生を対象とする。

注) 指標4は、西宮上ヶ原キャンパス、神戸三田キャンパスの利用者の合計とする。

注) 指標7について、学部生を対象とし、学生会公認団体は6総部(体育会、文化総部、応援団総部、新聞総部、総部放送局、宗教総部)、自治会傘下団体は法学部自治会、商学部商学会研究会委員会とする。母数となる在籍学生数は5月1日現在の数字。

注) 指標6では2011年度進捗状況報告より、2006年に遡って『CCA調査Q1. 大学生生活の充実度』のデータを採用。これまでデータとして使用してきた私大連「学生生活実態調査」が4年おきにししか実施されず、またその調査からの関学生のデータ抽出を取りやめたため。